

と き： 2024年1月16日～20日



勝間光洋（YMCAせとうち職員）



1. 災害時学校支援プロジェクトの概要と勝間さん派遣に至る経過報告

未だ多くの学校で再開のめどが立っていない石川県の被災地に向け、岡山県教育委員会は教職員らで構成する災害時学校支援チームを派遣を決定しました。

それに伴い、YMCAせとうちの職員である「勝間光洋さん」に派遣依頼がありましたので、それに応え派遣を決めました。16日に被災地に向け出発したのは、県内の学校の教職員らで構成された「災害時学校支援チームおかやま」のメンバー5人。1月17日から20日まで石川県七尾市で避難所となっている学校を訪れ、早期の学校再開に向けた準備や、こどもたちの心のケアなどの支援を行いました。

活動地：石川県七尾市立山王小学校他3小学校・七尾中学校他3中学校

構成員：教育事務所生涯学習課長・県立高校事務長・中学校事務職員

県教育政策課職員・YMCA職員（元小学校校長・チームリーダー）

2. 具体的作業内容（勝間さんによる現地での支援活動報告）

今回の災害時学校支援チームおかやまの活動は、発足後初の大仕事となりました。この活動は、県内の災害時の派遣を想定したものでしたが、最初の活動が他県での大震災というのは派遣される私にとって大変不安なものでした。活動開始日が阪神淡路大震災があった1月17日というのも何かの縁なのかと思いました。

災害時学校支援というのは、被害のあった学校、避難所となっている学校に行って、スムーズな学校再開ができるようサポートしていくものです。そして、児童生徒が安心して学校生活を送ることができたり、教職員の方々が子どもたちに寄り添い、教育活動ができるよう、教育に携わる者の視点で支援していきます。

今回行った主な活動は、避難所運営の手伝い、校内の安全点検、通学路の危険箇所を確認してマップ作り、避難所になっていた教室の清掃・消毒、そして、再開した学校の初日に児童を玄関で迎えることなどをしました。

私の主な仕事は、チームリーダーとして、市の教育委員会や各校の校長先生方と話をし、現状や悩み、今求めていることを聴き、自分たちでできる活動を決めていくことでした。その指示をもとに、チーム員は臨機応変に対応し、安全な居場所づくりに力を入れることができました。

私自身、西日本豪雨災害時に、避難所開設や被災後の教育活動、隣の学校の児童受け入れ等をしてきた経験があったので、校長の悩みをしっかりと聞き、受け止められることができました。その上での日常生活に戻す大切さを話せたことが今回の自分の大きな貢献でした。そして、顔をつないだことで、今後の支援活動が継続できる一歩になり、うれしく思います。何よりも子どもたちと彼らを支える教職員の皆さんの心のケアを大切に、日常生活を取り戻すための支援活動にチームおかやまが役に立つことを願います。



勝間光洋

岡山大学卒業後、教員となり岡山県内の小学校で勤務。キャリアの最後は矢掛幼稚園・小学校校長として活躍。在任中西日本豪雨災害を体験。教員時代ネイチャーゲームと出会い、現在岡山県シェアリングネイチャー協会事務局長。23年4月よりYMCAせとうち職員として、倉敷市自然の家に勤務し、現在に至る。愛称かっちゃん・特技は腹話術。